

令和7年度

「マイスター・ハイスクールネットワーク構築にかかる支援及び専門高校の産学連携に関する調査研究事業」調査研究事業

専門高校における産学連携に関する実態調査 (全国専門高校アンケート調査)

株式会社内田洋行 教育総合研究所

- 調査概要
- 結果
 - 単純集計
 - 分析
 - リサーチクエスチョンに基づく分析
 - 相関分析
- 付録
 - 質問項目一覧

調査概要

項目	内容
目的	専門高校と産業界等の連携について、取組内容や体制等の実態を把握する。
対象	全日制の専門高校。 大学科(農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉科)を抽出単位とし、計418大学科を抽出し、管理機関経由で調査を依頼した。
方法	Webアンケート調査
期間	2025/10/31～2025/12/18
回答データ数	368/418大学科(回収率88.0%)から回答が得られた。※詳細は次頁

抽出数と得られた回答数

		層別抽出大 学科数※	抽出大学科 数	回答大学科 数	合計回答大 学科数	回答大学科 数(%)	合計回答大 学科数(%)
全日制_農業	公立	64	65	59	60	92.2%	92.3%
	国私立	1		1		100.0%	
全日制_工業	公立	95	114	87	103	91.6%	90.4%
	国私立	19		16		84.2%	
全日制_商業	公立	94	123	91	112	96.8%	91.1%
	国私立	29		21		72.4%	
全日制_水産	公立	10	10	8	8	80.0%	80.0%
	国私立	0		0		—	
全日制_家庭	公立	36	56	31	48	86.1%	85.7%
	国私立	20		17		85.0%	
全日制_看護	公立	7	22	7	17	100.0%	77.3%
	国私立	15		10		66.7%	
全日制_情報	公立	5	6	4	4	80.0%	66.7%
	国私立	1		0		0.0%	
全日制_福祉	公立	14	22	11	16	78.6%	72.7%
	国私立	8		5		62.5%	
合計		418		368			

※ただし、抽出はマイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業の事業実施校を除外した上で実施した。
また、学校負担等を考慮し、1校につき2大学科以上が抽出されないよう抽出した。

※国立の専門高校は数が少ないため、実際に抽出された学校は0校であった。

質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	全般	産学連携の深さ	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。
q2		産学連携の深さ_補足	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。
q3		産学連携の深さ_補足	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。
q4		産学連携歴	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q5		きっかけ	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください
q6		目的	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q7		産学連携目的の重要性	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q8	具体的な取組	取組内容	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q9	産学連携の成果	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q10	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の中で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
q11	協働体制	ネットワーキング	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。
q12	自治体の支援体制	支出	令和6年度の1年間において、貴校が学校の予算として直接支出した「産学連携に関わる取組」の年間予算額についてお答えください(講師への謝金、交通費、実習に必要な消耗品・教材費、外部人材(コーディネーター)の件費など)。 その際、都道府県や教育委員会が直接支払っている経費(例:外部人材の件費補助)は含めないでください。
q13		広域自治体からの資源提供	都道府県(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。
q14		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 都道府県から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。
q15		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。
q16		基礎自治体からの資源提供	学校の所在する市町村(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。
q17		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 市町村から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。
q18		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、)代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。

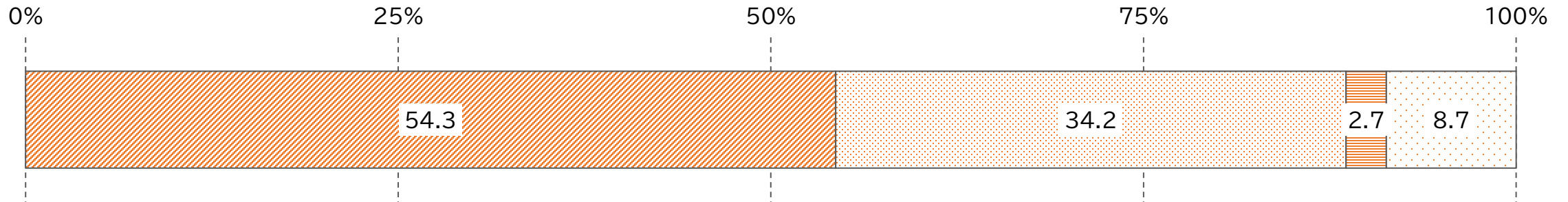
質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目	
q19	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解1	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。	
q20		連携先の理解2	企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。	
q21		連携先からの理解	貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。	
q22		課題感の反映	現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。	
q23		共通ビジョンの検討	学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。	
q24		企業の貢献度	産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。	
q25		継続性(学校側)	貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	
q26		継続性(連携先側)	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	
q27		取組の実施プロセス	産業界との連携の必要性検討	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会
q28			課題の産業界への共有	学校が抱える課題を産業界に伝える機会
q29	産業界の目的や必要性の理解		産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会	
q30	学校と産業界の議論の場1		学校と産業界が対等な立場で議論する機会	
q31	学校と産業界の議論の場2		学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会	
q32	全般	負担に見合う成果	貴学科で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。	
q33		継続推進のキーパーソン	貴学科における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。	
q34	産学連携の成果	進路	貴学科における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。	

結果(単純集計)

Q1.産学連携の深さ

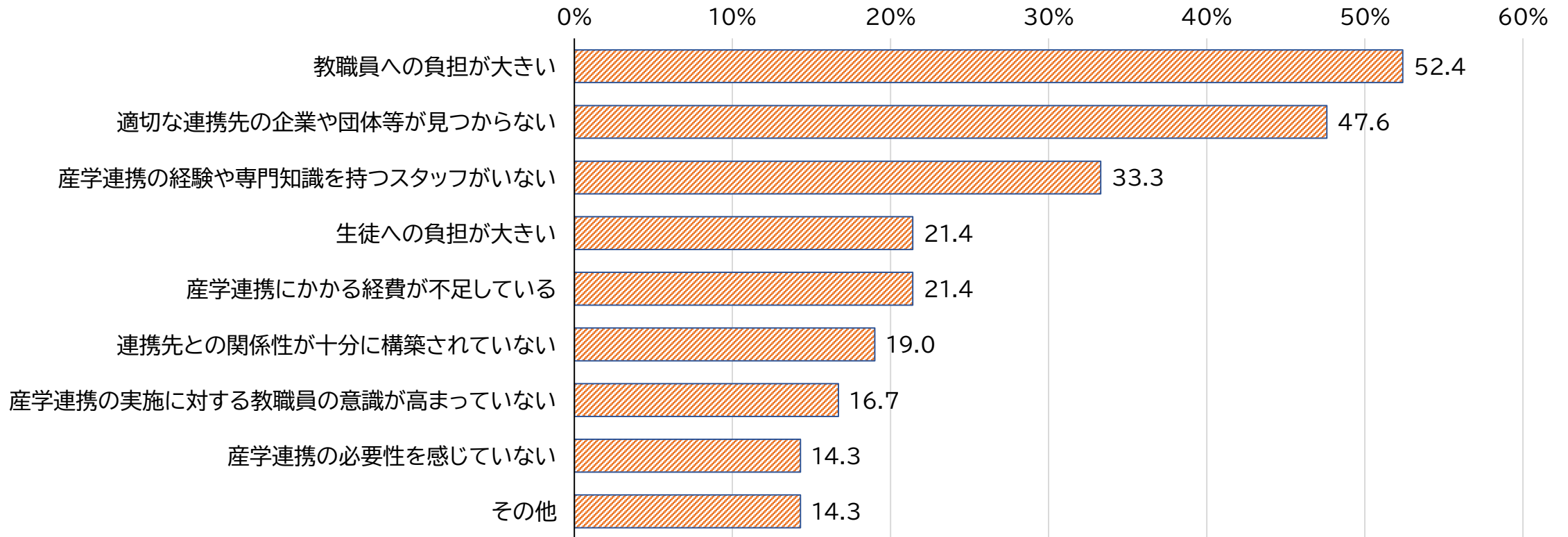
Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(N=368)(単一選択式)



- 教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している
- 年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している
- 以前は実施していたが、今年度は実施していない
- 以前より実施していない

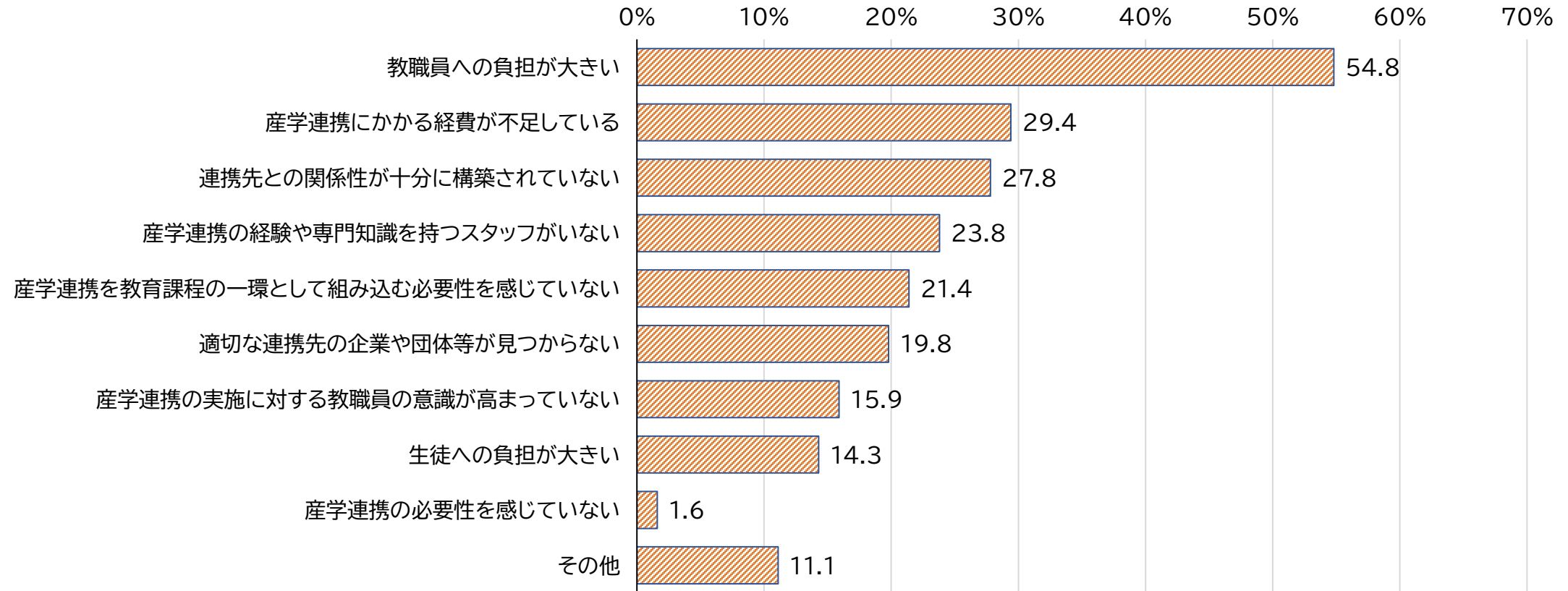
Q2.産学連携の深さ_補足

Q2. 貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。(n=42)(複数選択式)



Q3.産学連携の深さ_補足

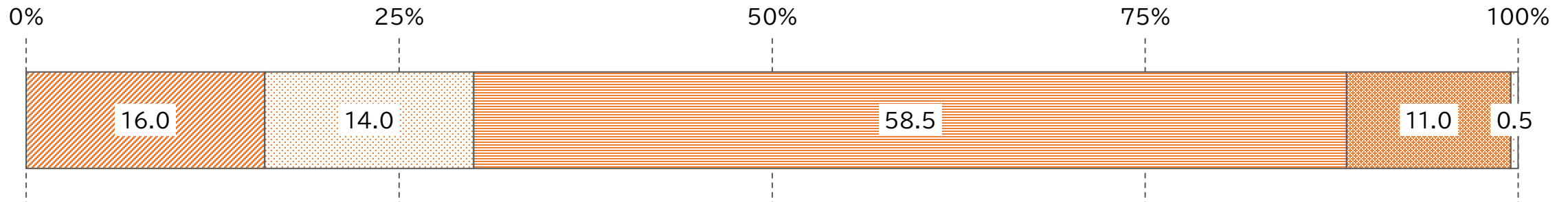
Q3.貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。(n=126)(複数選択式)



「その他」の例:授業時間の確保が困難、教育課程に組み込んでいないが十分な連携と考えている 等

Q4.産学連携歴

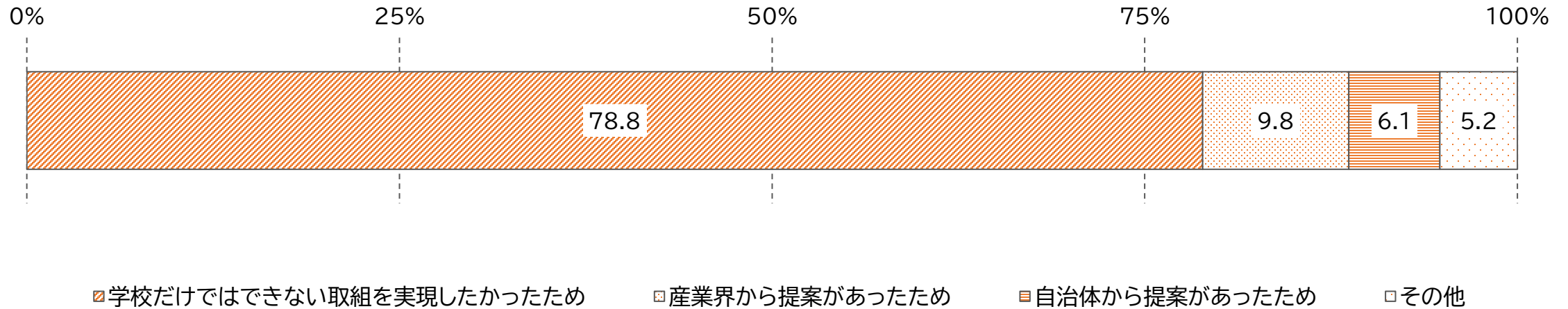
Q4.貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？(n=200)(単一選択式)



- ▣ 2022年以降から実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1~3年前から)
- ▣ 2018年度~2021年度から実施(現行指導要領施行前に開始、4~6年前から)
- ▣ 2017年度以前から実施(7年以上前から継続して実施)
- ▣ いつからか不明
- その他

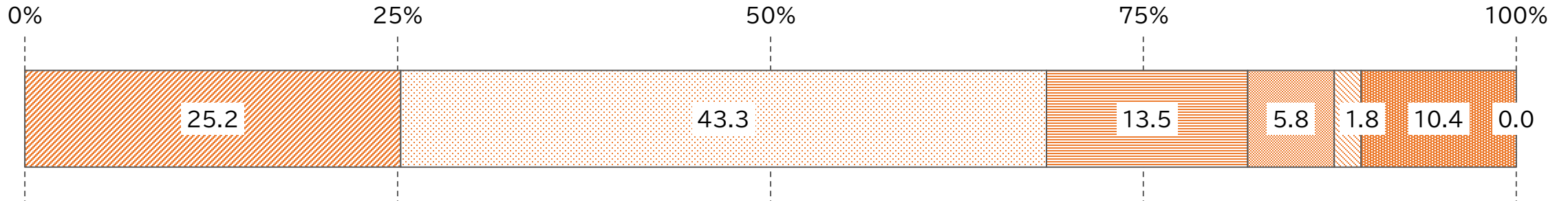
Q5.きっかけ

Q5.産学連携に取り組んだきっかけを教えてください(n=326)(単一選択式)



Q6.目的

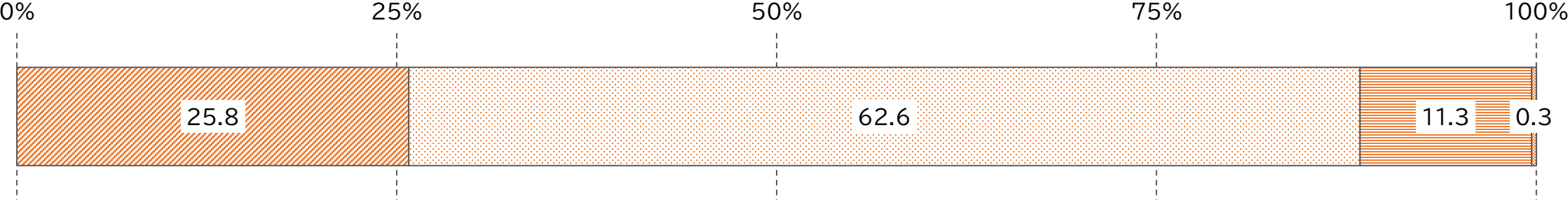
Q6.貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。(n=326)(単一選択式)



- キャリア教育を充実させるため
- 実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため
- 課題解決力を育む学習を充実させるため
- 協働的な学びを充実させるため
- 入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため
- 地域社会が求める人材を育成するため
- その他

Q7.産学連携目的の重要性

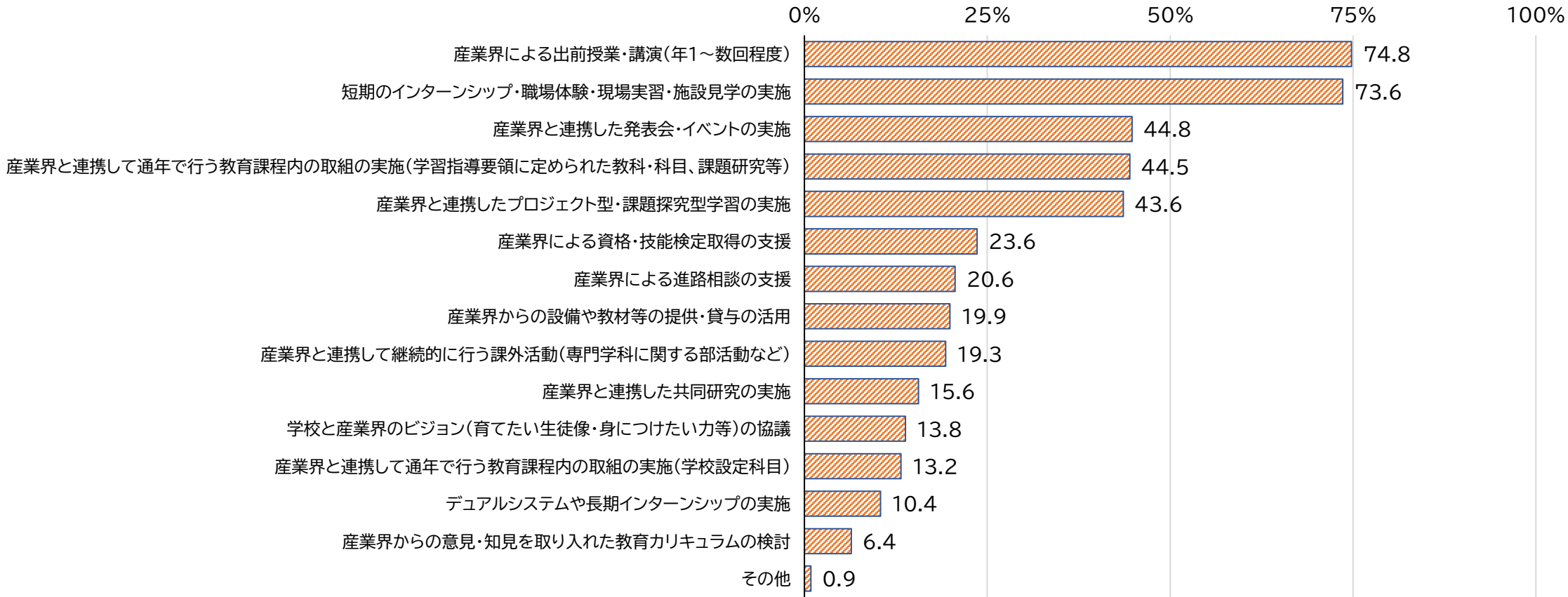
Q7.前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。(n=326)(単一選択式)



貴学科としての最重要課題である
 確実に取り組むべき重要な課題である
 優先度は高くないが、取り組むべき課題である
 取り組む必要性は低い課題である

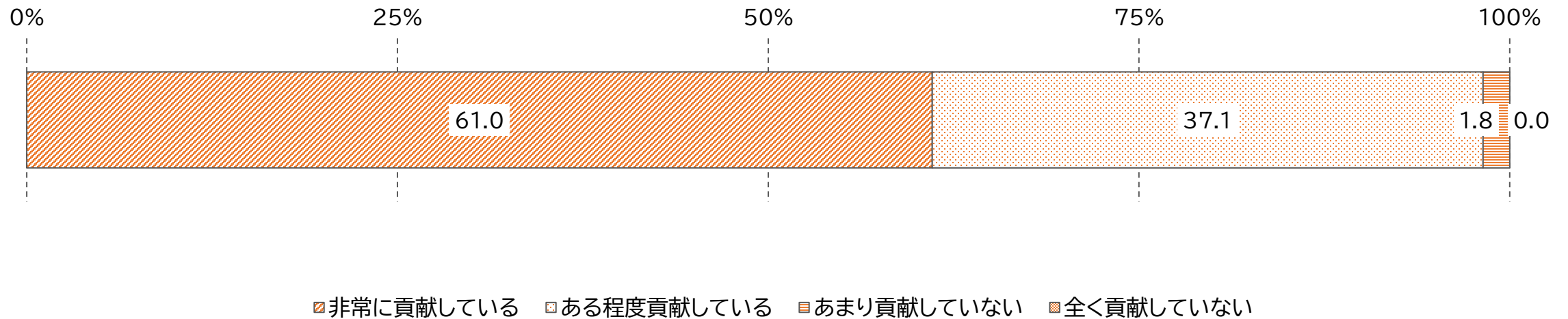
Q8.取組内容

Q8.今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。
 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。(n=326)(複数選択式)



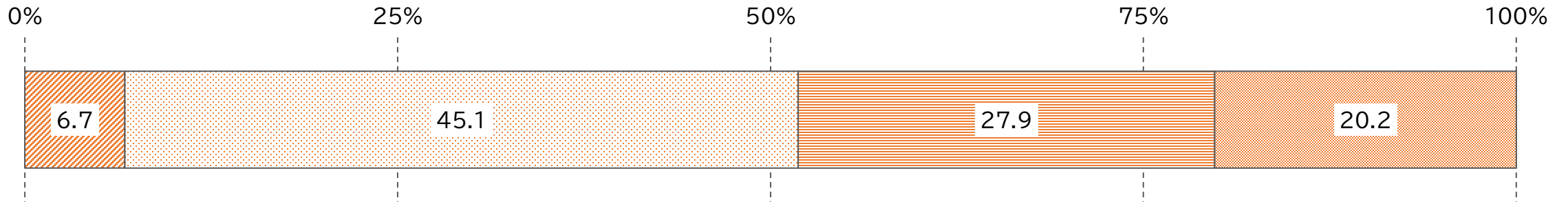
Q9.産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度

Q9.産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(n=326)(単一選択式)



Q10.産学関係の深まり

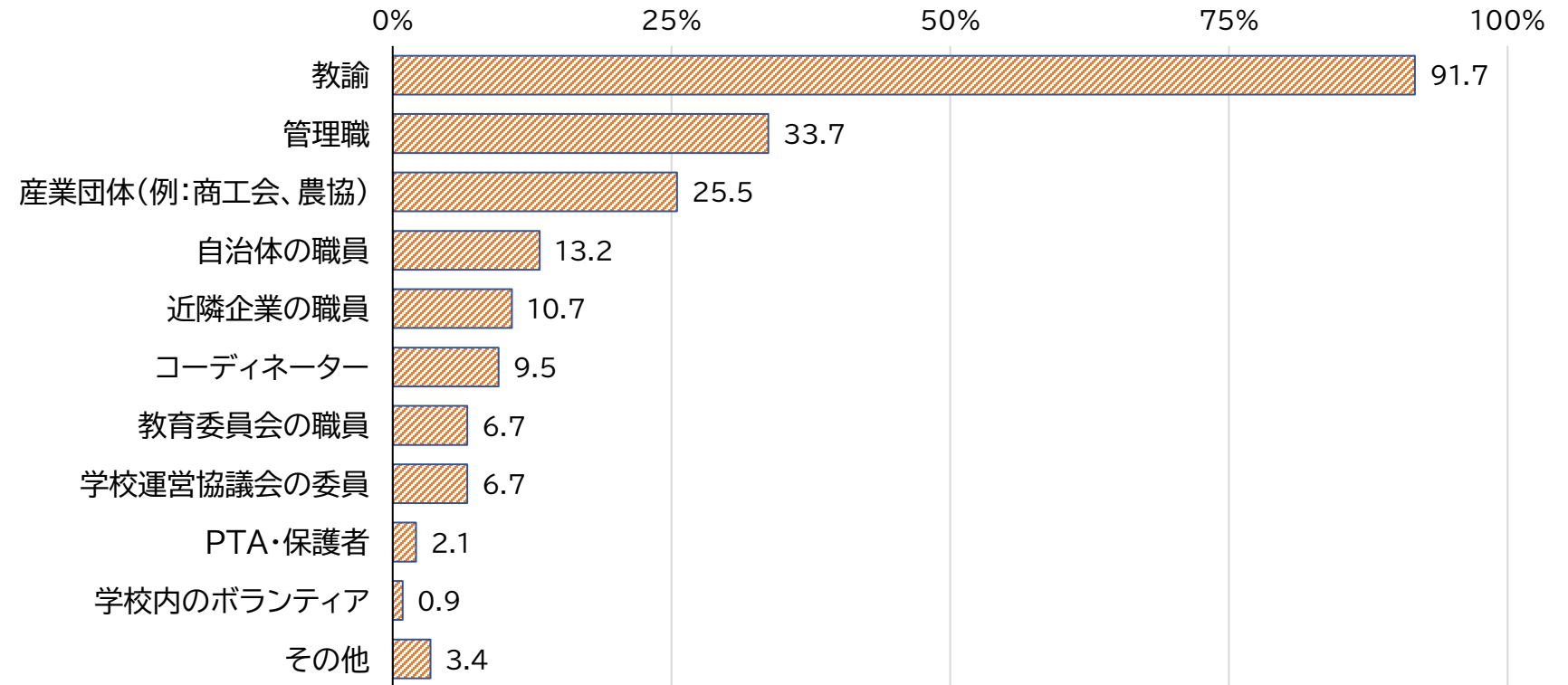
Q10.貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。
※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。(n=326)(単一選択式)



■ 一方のニーズに応えている関係 ■ 協力しあっている関係 ■ 共通のビジョンに基づいて協働している関係 ■ 安定して取組を継続していける関係

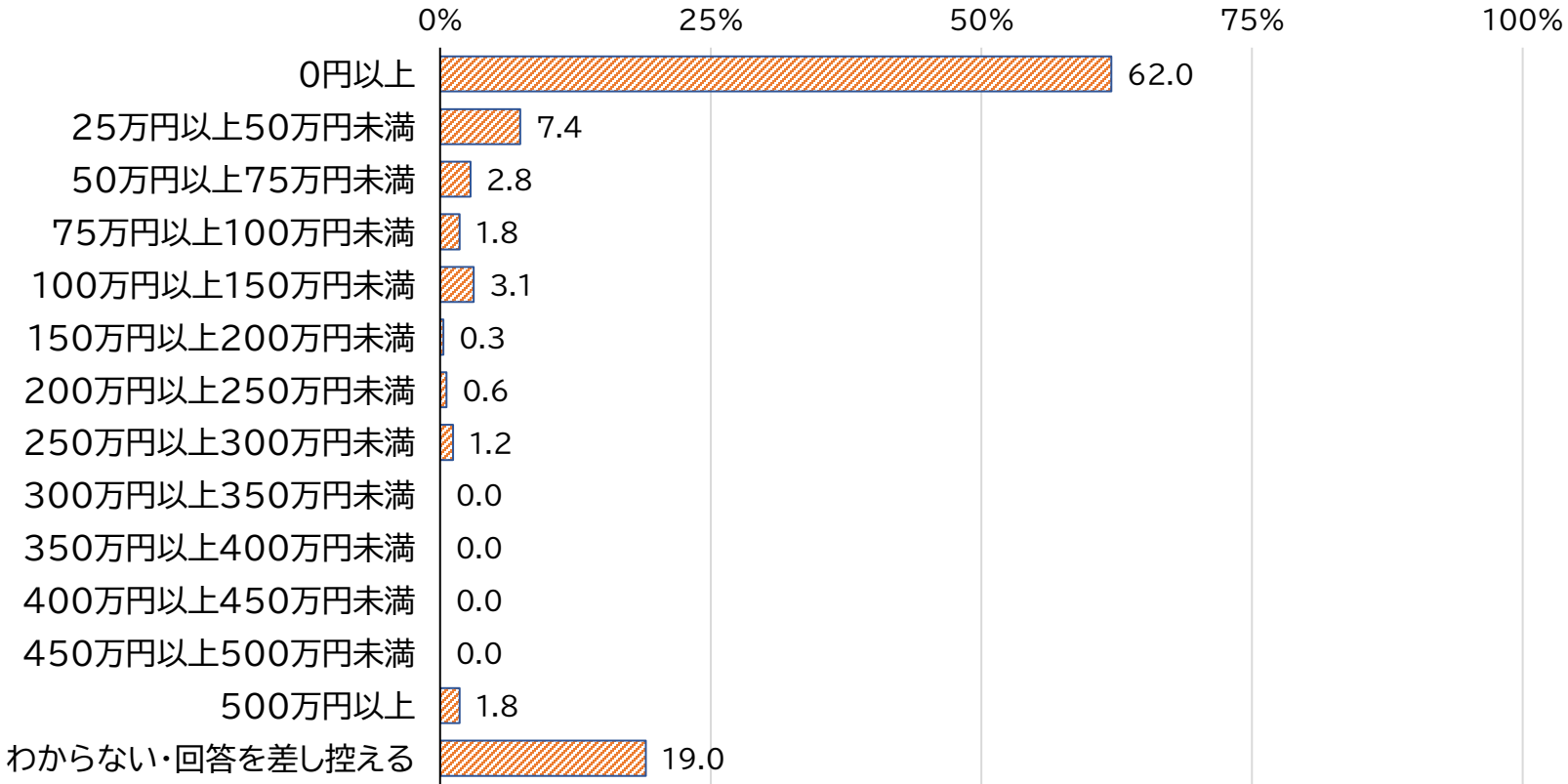
Q11. ネットワーキング

Q11. 産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。(n=326)(複数選択式)



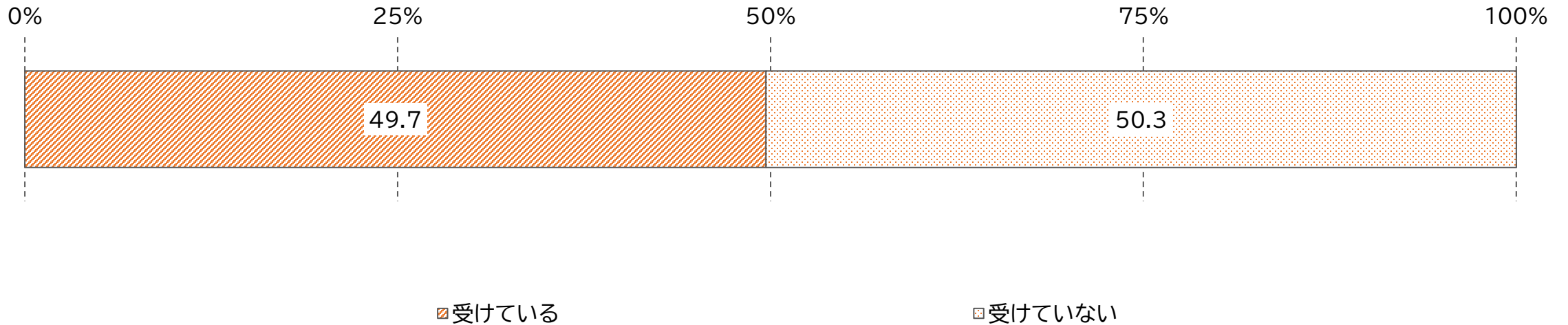
Q12.支出

Q12.令和6年度の1年間において、貴校が学校の予算として直接支出した「産学連携に関わる取組」の年間予算額についてお答えください
 (講師への謝金、交通費、実習に必要な消耗品・教材費、外部人材(コーディネーター)の人件費など)。
 その際、都道府県や教育委員会が直接支払っている経費(例:外部人材の人件費補助)は含めないでください。(n=326)(単一選択式)



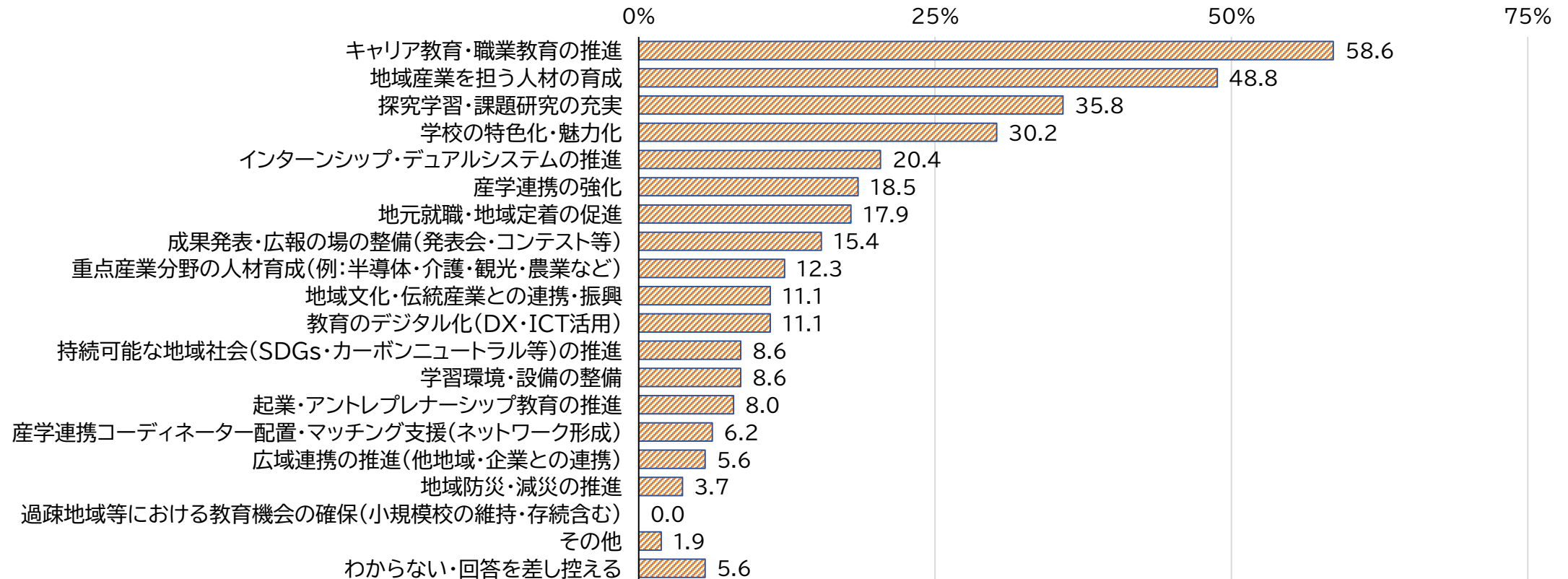
Q13.広域自治体からの資源提供

Q10.都道府県(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。(n=326)(単一選択式)



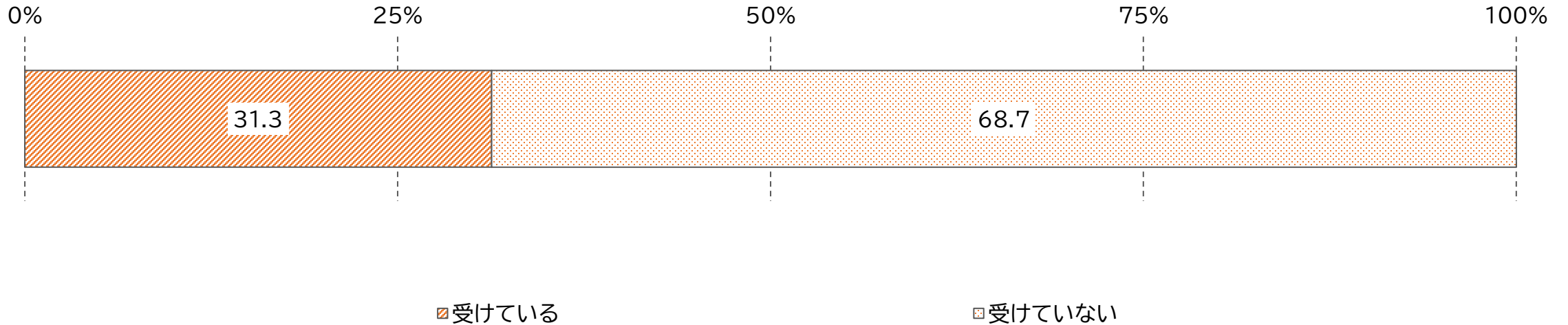
Q14. 予算獲得に際しての理由

Q14. (受けている場合、)都道府県から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。(n=162)(複数選択式)



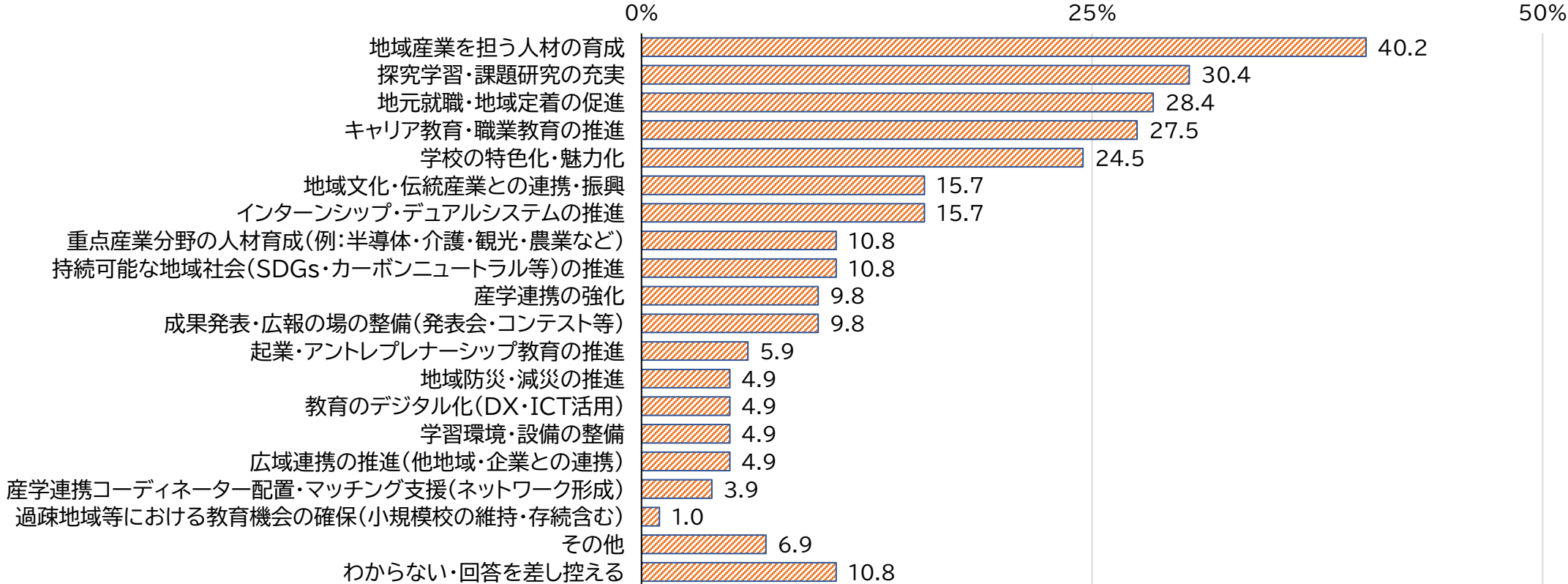
Q16.基礎自治体からの資源提供

Q16.学校の所在する市町村(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。(n=326)(単一選択式)



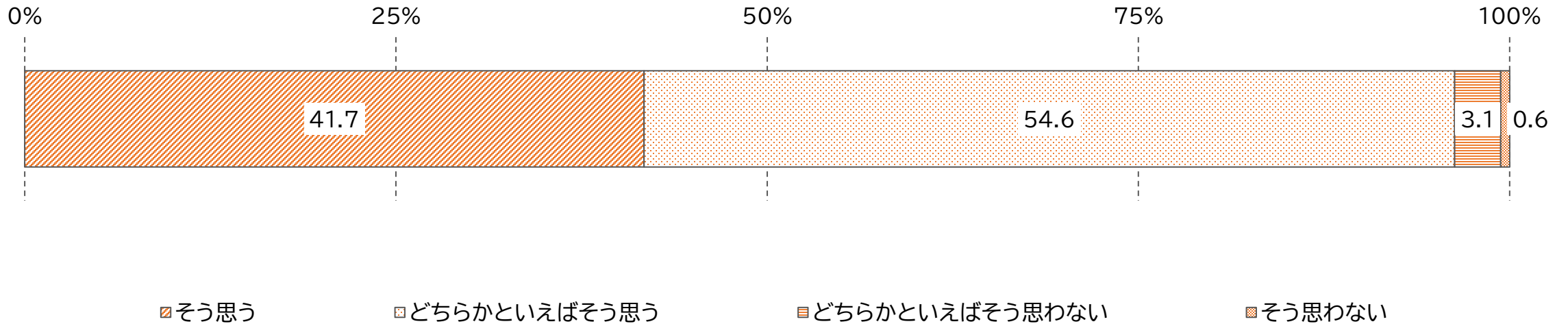
Q17. 予算獲得に際しての理由

Q17. (受けている場合、)都道府県から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。(n=102)(複数選択式)



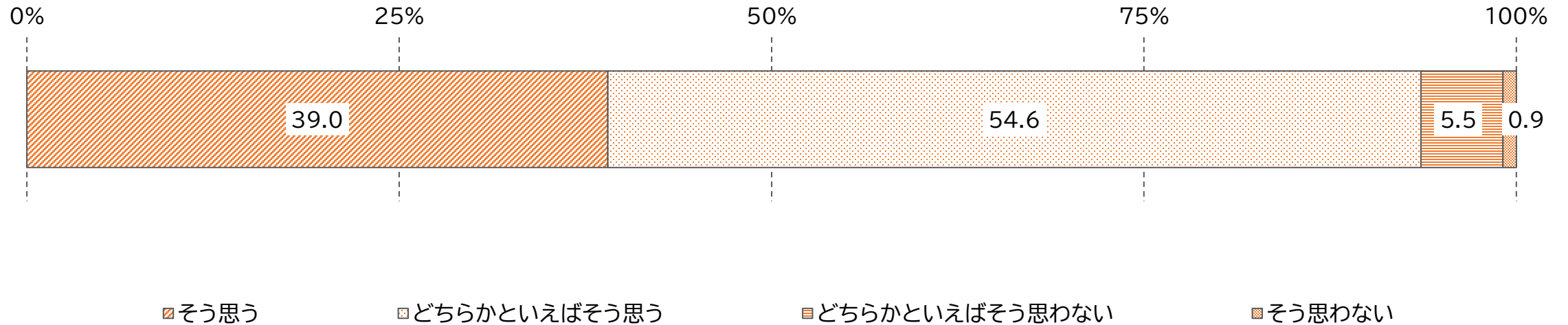
Q19.連携先の理解1

Q19.連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。(n=326)(単一選択式)



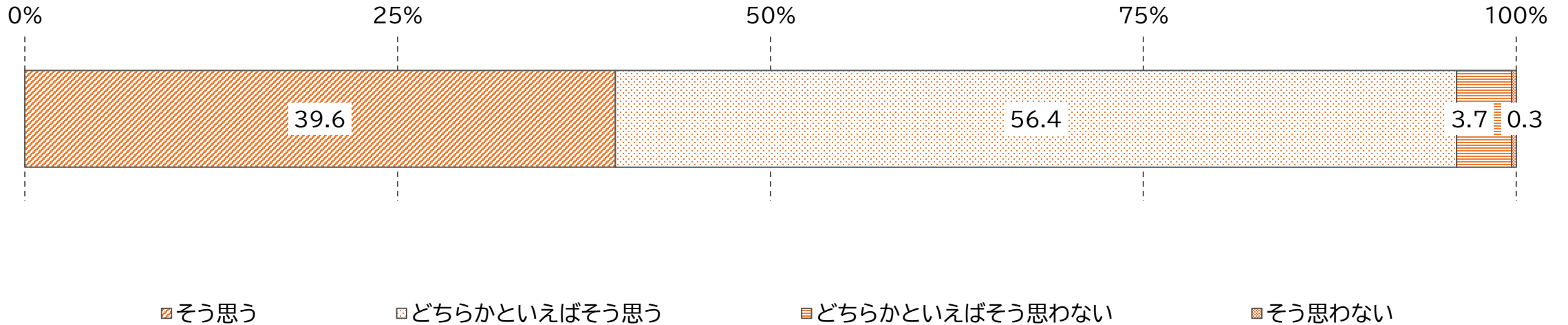
Q20.連携先の理解2

Q20.企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。(n=326)(単一選択式)



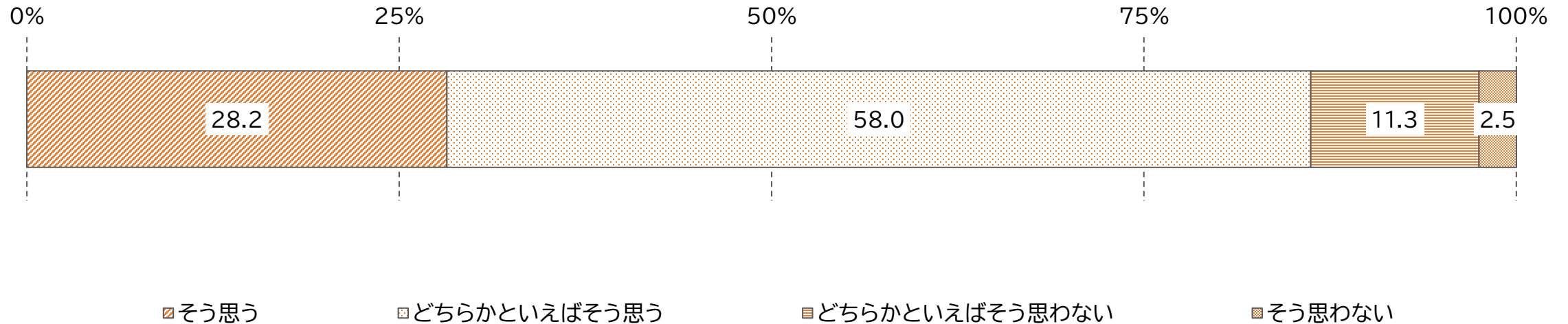
Q21.連携先からの理解

Q21.貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。(n=326)(単一選択式)



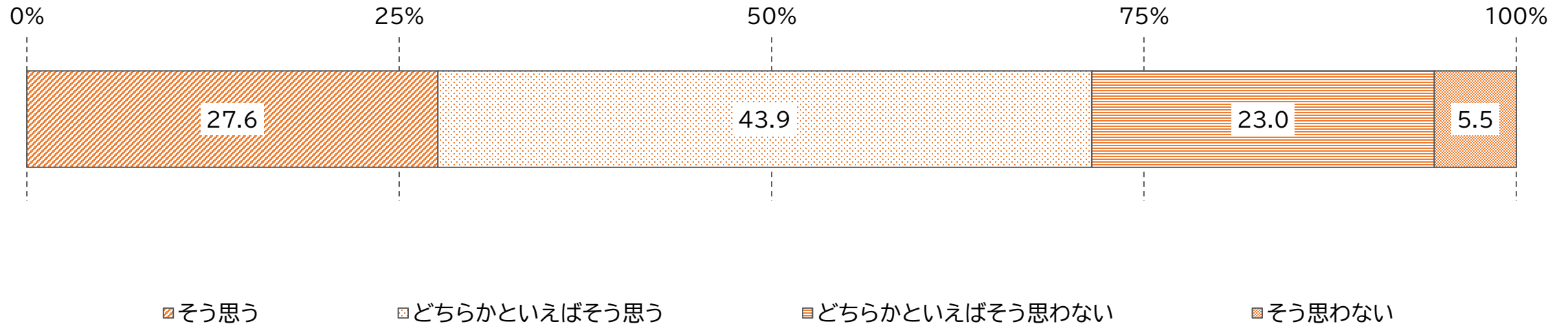
Q22.課題感の反映

Q22.現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。(n=326)(単一選択式)



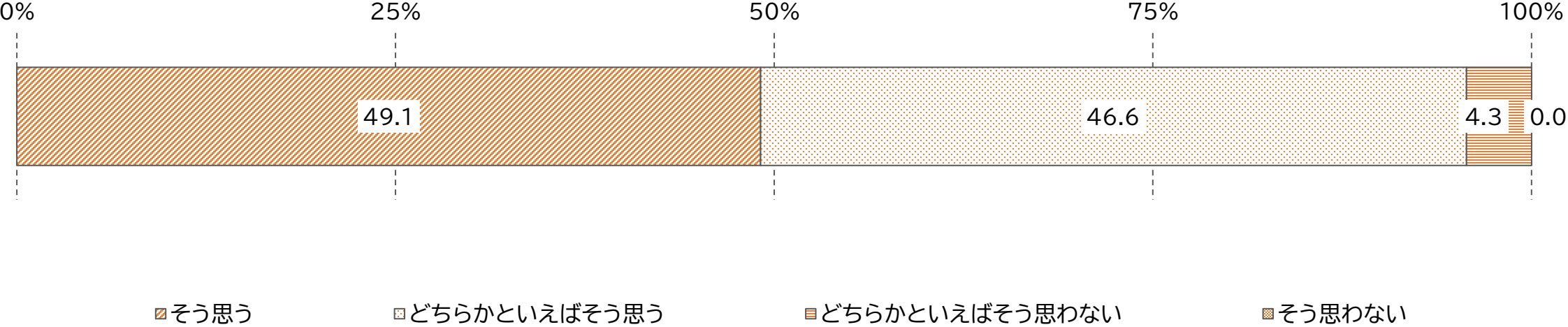
Q23.共通ビジョンの検討

Q23.学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。(n=326)(単一選択式)



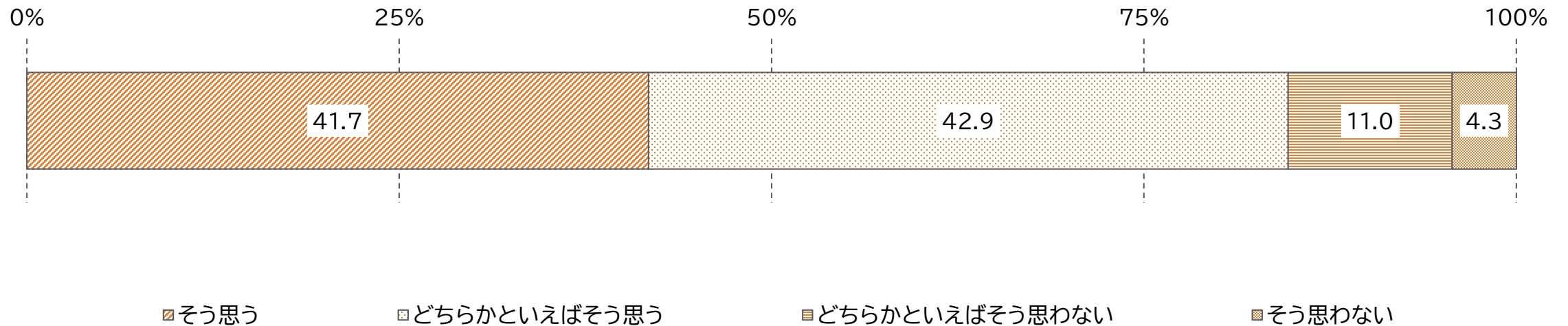
Q24.企業の貢献度

Q24.産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。(n=326)(単一選択式)



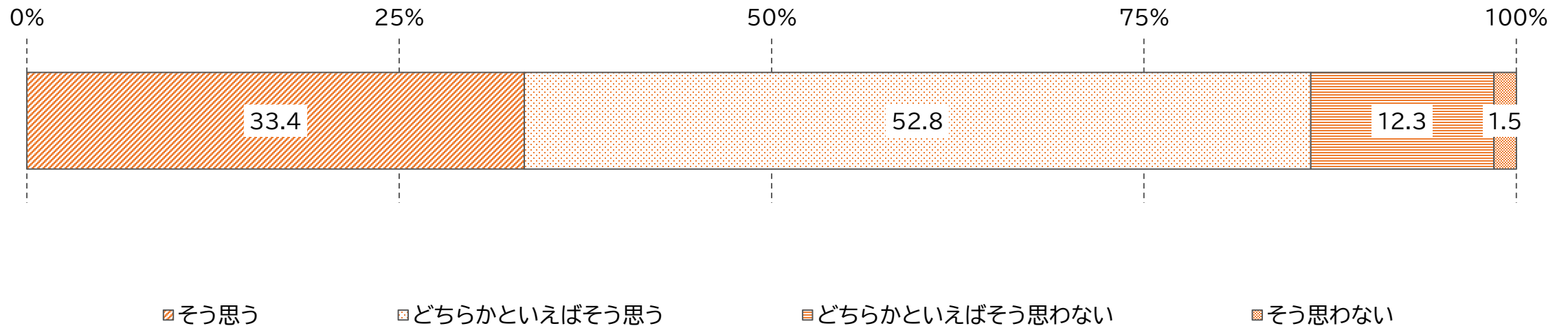
Q25.継続性(学校側)

Q25.貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。(n=326)(単一選択式)



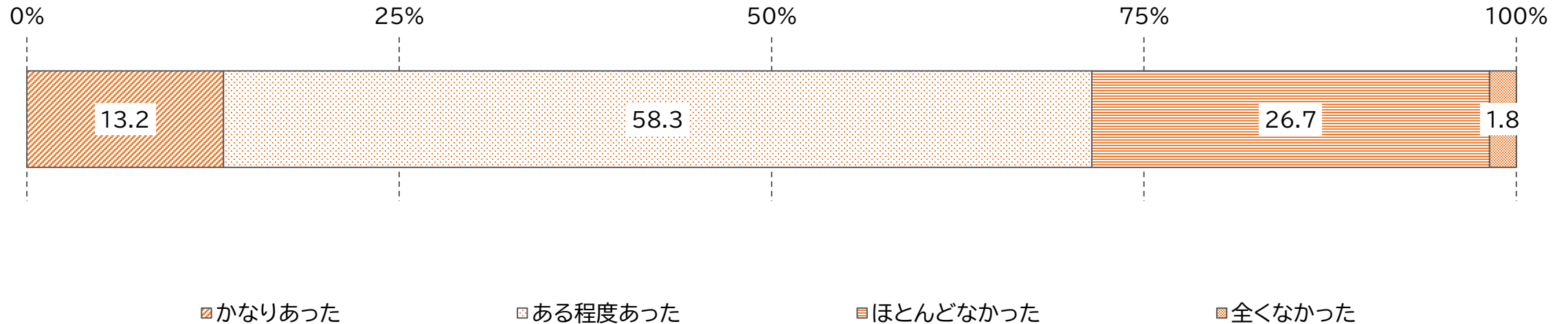
Q26.継続性(連携先側)

Q26.産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。(n=326)(単一選択式)



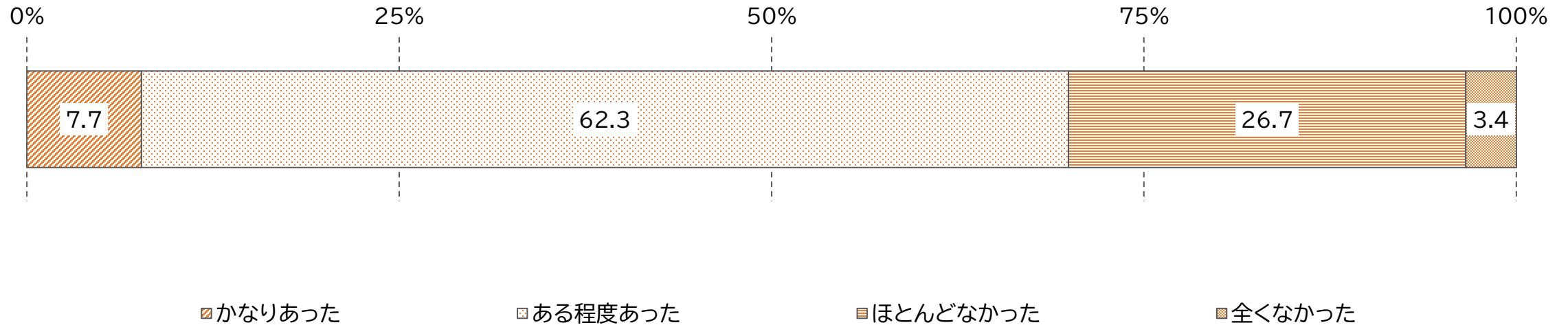
Q27.産業界との連携の必要性検討

Q27.学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会(n=326)(単一選択式)



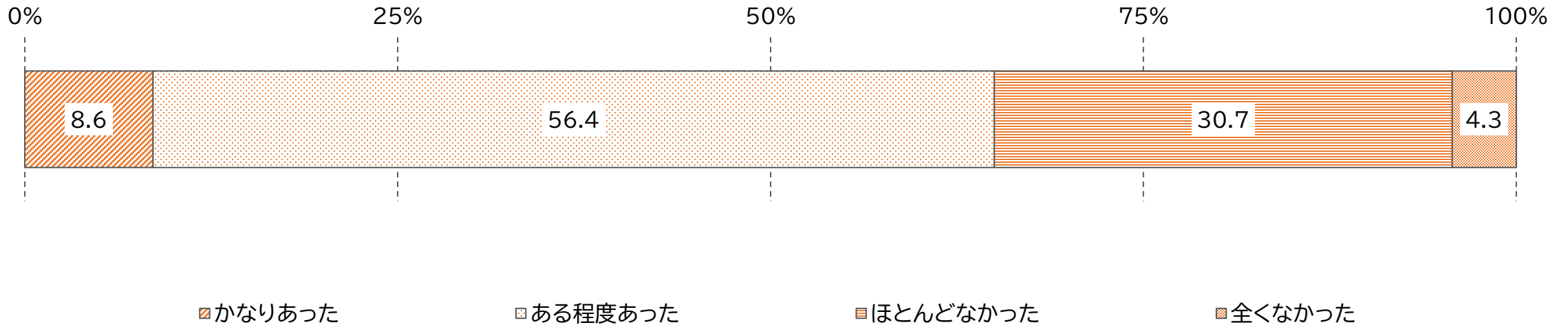
Q28.課題の産業界への共有

Q28.学校が抱える課題を産業界に伝える機会(n=326)(単一選択式)



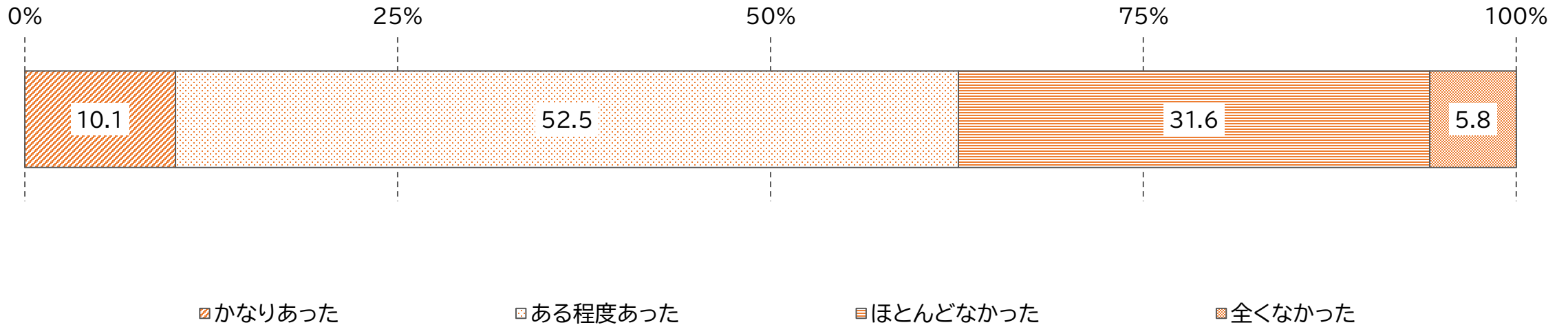
Q29.産業界の目的や必要性の理解

Q29.産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会(n=326)(単一選択式)



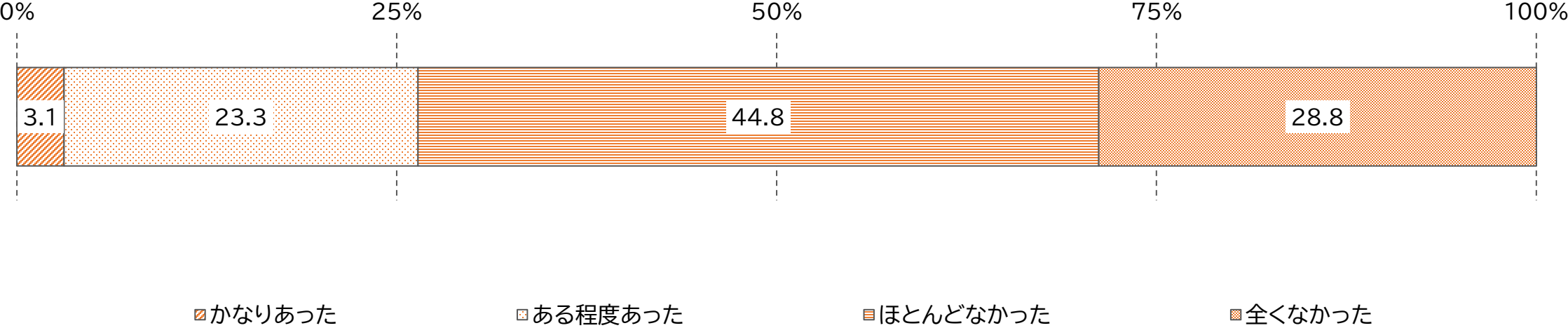
Q30.学校と産業界の議論の場1

Q30.学校と産業界が対等な立場で議論する機会(n=326)(単一選択式)



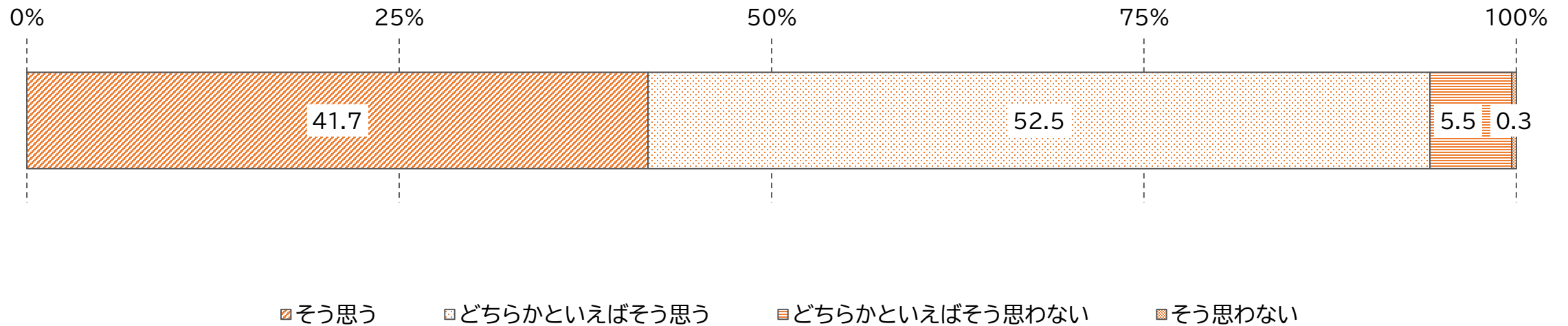
Q31.学校と産業界の議論の場2

Q31.学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会(n=326)(単一選択式)



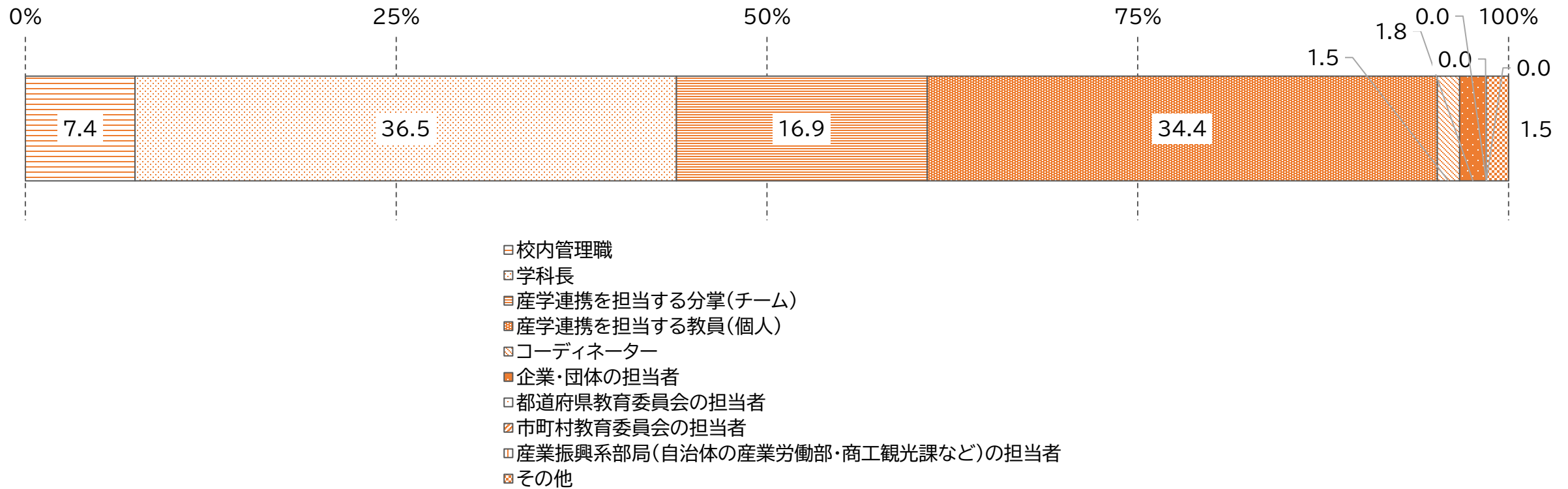
Q32.負担に見合う成果

Q32.貴学科で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。(n=326)(単一選択式)



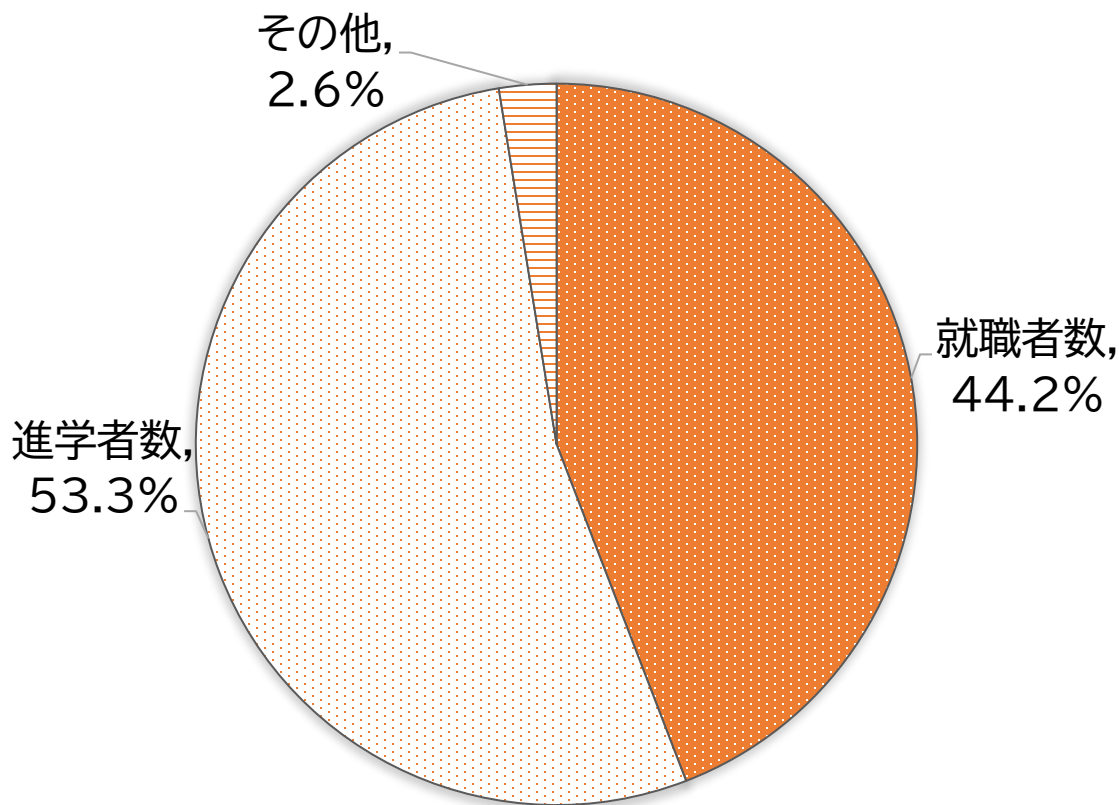
Q33. 継続推進のキーパーソン

Q33. 貴学科における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。(n=326)(単一選択式)



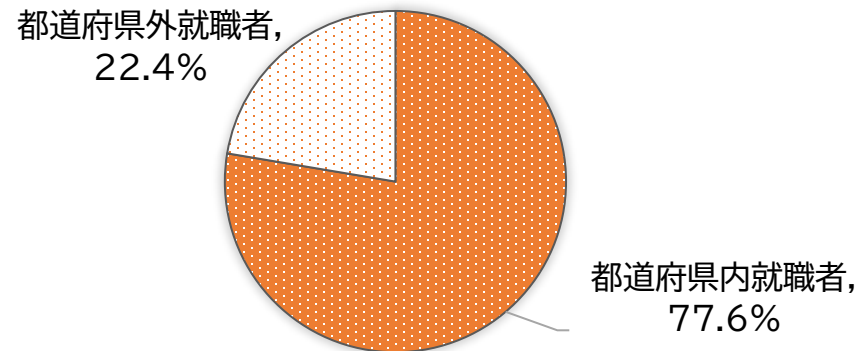
Q34.進路

進路(卒業生数を分母とした、就職者数及び進学者数の割合)
(N(卒業生)=37,578, N(学校)=361※)

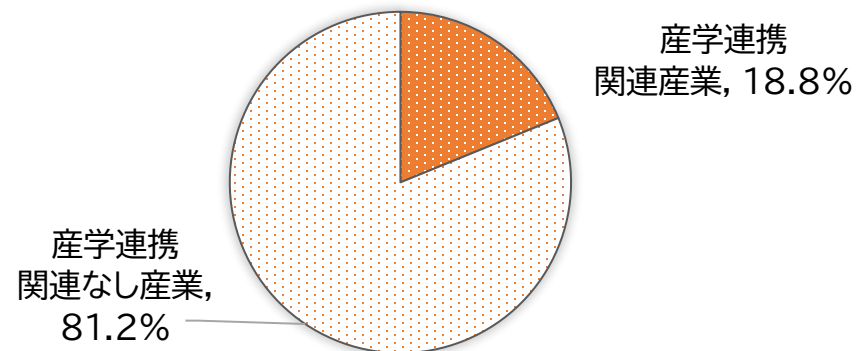


※アンケート回答校368校中、以下に該当する学校は集計対象外とした。
外れ値で誤入力の可能性が高い1校、“卒業生数>(就職者数+進学者数)”である5校、卒業生数が”0人”の1校。

都道府県内就職率
(就職者数を分母とした都道府県内就職者数の割合)
(n(就職者)=16,591, n(学校)=351)



産学連携の取組を行った関連産業への就職率
(就職者数を分母とした「産学連携の取組を行った関連産業への就職者数」の割合※)
(n(就職者)=5,092, n(学校)=147)



※「産学連携の取組を行った関連産業への就職者数」は任意回答。

結果(リサーチクエスチョンに基づく分析)

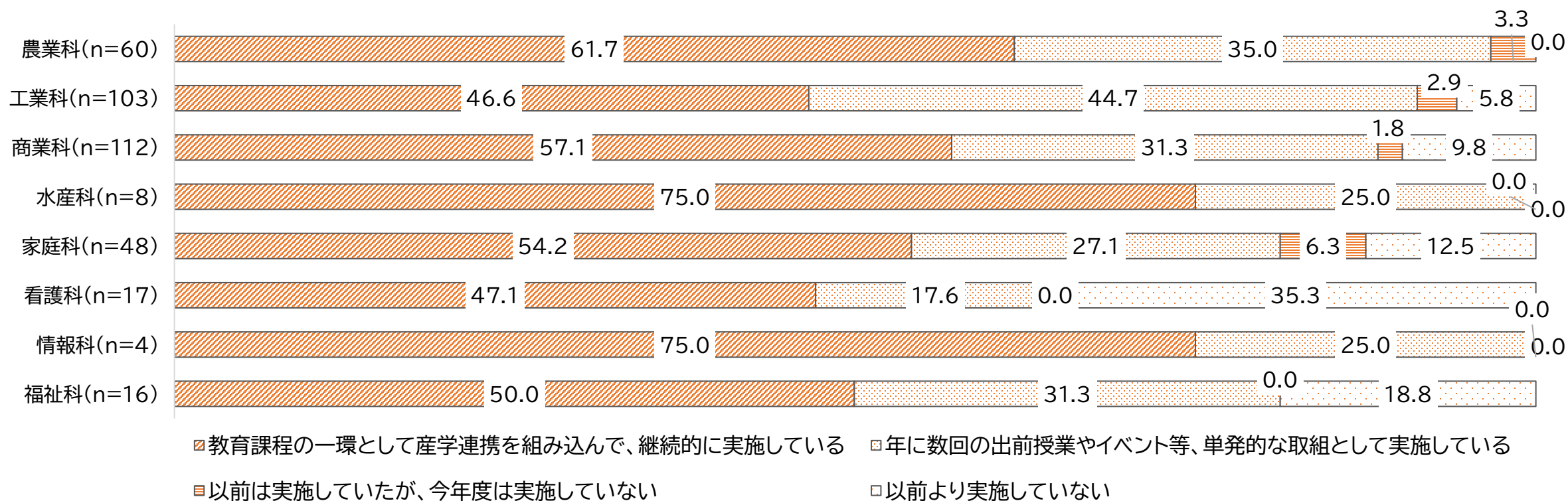
リサーチクエスチョン一覧

内容
学科間で産学連携のありかたに違いはみられるか
公立・国私立間で産学連携のありかたに違いはみられるか
産学連携を教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することは、学科目標やビジョンへの貢献度を高めるか(Q1を群としたQ9平均値比較)
産学連携歴が長いほど、より成果を上げているか(Q12×Q4クロス集計)
取組目的により、成果の評価が異なるか(Q12×Q6クロス集計)
取組内容により、得られる効果に違いがあるか(Q13×Q7クロス集計)

RQ: 学科間で産学連携のありかたに違いはみられるか

- 「実施している」割合は農業科・工業科・水産科・情報科で9割を超える。(商業科・家庭科・看護科・福祉科では9割未満。)

Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(単一選択式)

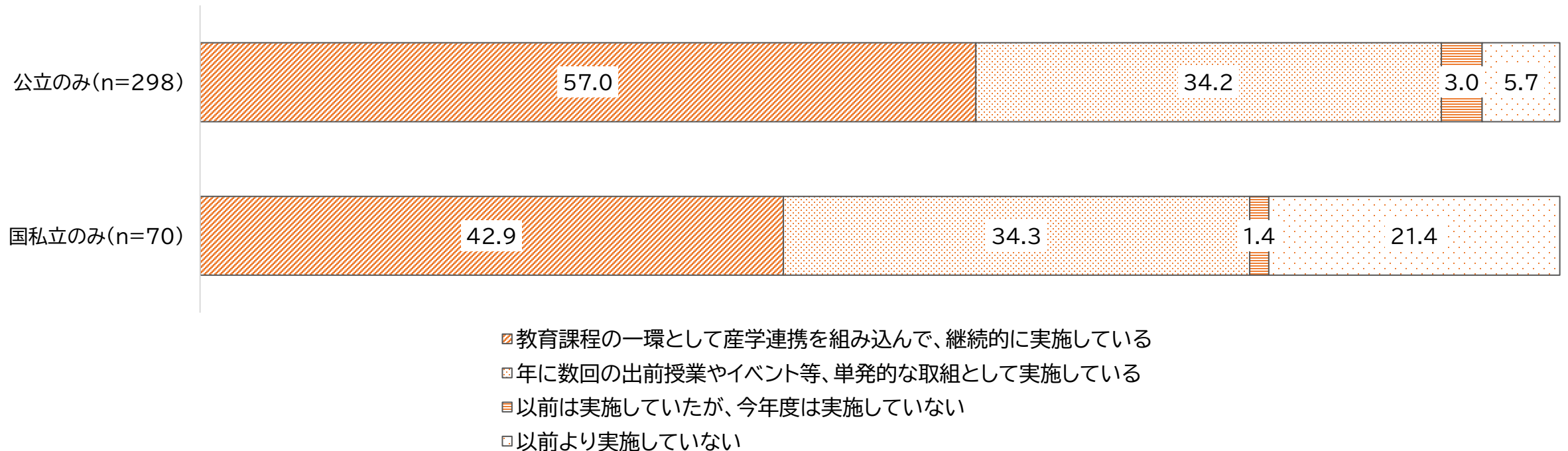


※ただし、「実施していない」学校であっても、実習科目における産業界との連携を産学連携とみなさずに回答している学校もみられた。(例:看護科)

RQ: 公立・国私立間で産学連携のありかたに違いはみられるか

- 公立の専門高校のほうが「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」割合が約14.1ポイント高い。
- 国私立の方が「以前より実施していない」割合が約15.7ポイント高い。

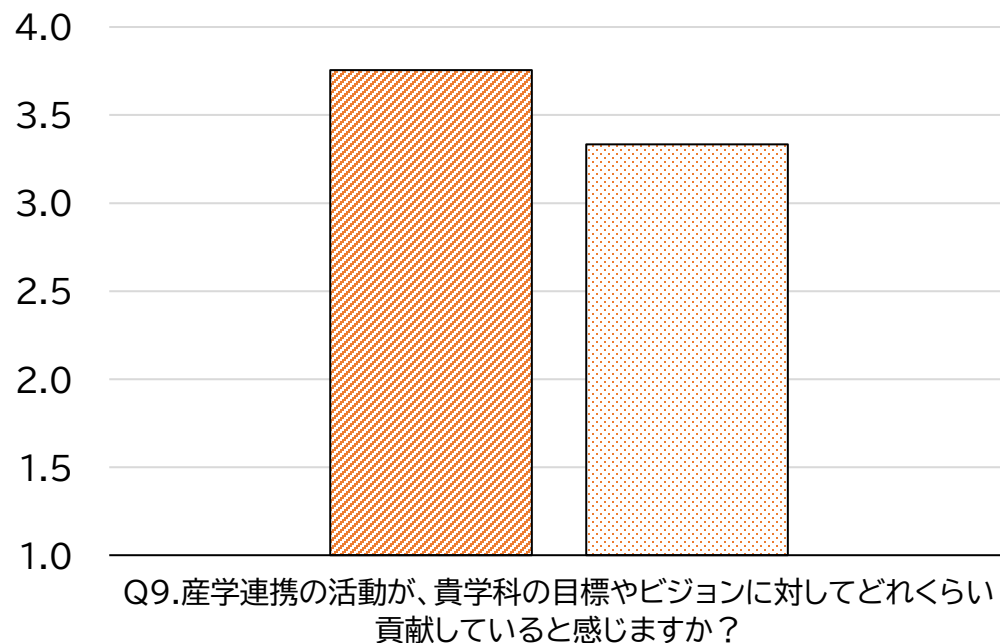
Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(単一選択式)



※「国私立のみ」の内訳について、n=70はすべて私立であった(国立の専門高校は数が少ないため、抽出されたのは0校であった)。

RQ:産学連携を教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することは、学科目標やビジョンへの貢献度を高めるか(Q1を群としたQ9平均値比較)

- 「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」ほうが、そうでない(単発的な取組)よりも学科目標やビジョンに貢献していた。(4点(そう思わない)~1点(そう思わない)で点数付与し平均値を算出すると、約0.42点高い)。
- 得られる示唆の例:産学連携は、教育課程の一環として組み込み、継続的に実施することが有効。



- 教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している (n = 200)
- 年に数回の出前授業やイベントなど、単発的な取組として実施している (n = 126)

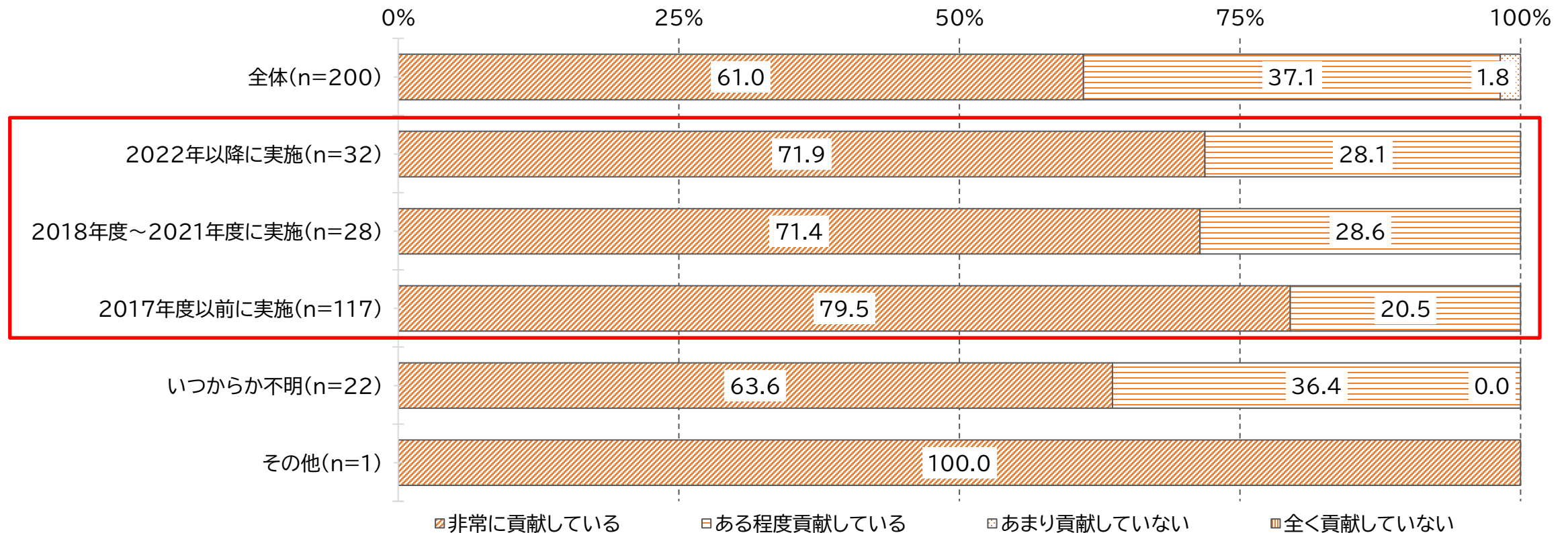
※等分散性を仮定しない検定を実施した結果、統計的に有意な差が示された($t(215)=7.16, p<.001, d=0.87$)。

dは効果量を示し、2群の平均値がどれほど離れているかを示す。大まかな目安として、大きさが0.2以上のとき「小さな差」、0.5以上のとき「中程度の差」、0.8以上のとき「大きな差」とされる。

RQ:教育課程の一環として産学連携を組み込んでいる歴が長いほど、より成果を上げているか(Q9×Q4クロス集計)

- 産学連携歴の違い(約1~4年、5~8年、9年以上)によって、学科目標やビジョンへの貢献度に差がみられることはあまりなかった。
- 考えられる示唆の例:歴に加えて教育プログラムを改善する取組(PDCAサイクル)こそが重要。/歴5年前後の差は成果に大きな差を生まず、より長期にわたって深めることが重要。

Q12.産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか?(単一選択式)

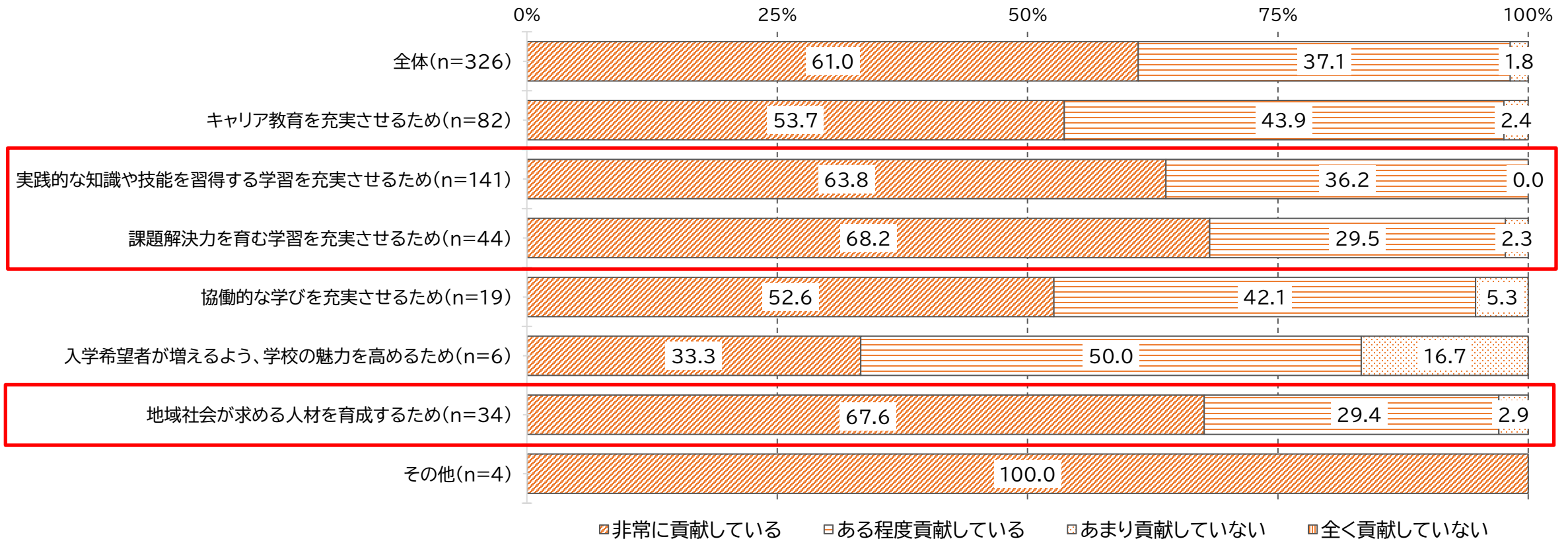


※Q4はQ1選択肢1「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」回答者200名のみが回答対象。

RQ: 取組目的により、成果の評価が異なるか(Q9×Q6クロス集計)

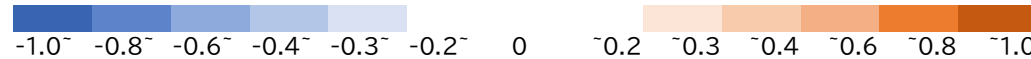
- 例えば、「実践的な知識や技能を習得する学習を充実させる」こと、「課題解決力を育む学習を充実させる」こと、「地域社会が求める人材を育成する」ことを産学連携の第一の目的に据えている学校において、学科目標・ビジョンへの貢献度が高い傾向がみられた（他群と比べて、「非常に貢献している」回答割合が10ポイント以上高い）。
- 考えられる示唆: 学科目標やビジョンの達成のためには産学連携目的をよく精査する必要がある

Q12. 産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)



結果(相関分析)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



相関行列

		全国アンケート																						
		Q1	Q4	Q7	Q9	Q10	Q12	Q13	Q16	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	
全国アンケート	産学連携の深さ	Q1	1.00	NA	0.40	0.57	0.33	0.19	0.15	0.22	0.39	0.31	0.34	0.32	0.39	0.33	0.35	0.35	0.35	0.29	0.26	0.27	0.15	0.41
	産学連携歴	Q4	NA	1.00	0.17	0.14	0.09	0.15	0.13	-0.01	0.05	0.09	-0.03	-0.13	-0.23	-0.01	0.29	0.25	0.13	-0.03	-0.02	-0.01	-0.08	0.11
	産学連携目的の重要性	Q7	0.40	0.17	1.00	0.55	0.13	0.26	0.24	0.13	0.37	0.35	0.33	0.22	0.29	0.29	0.21	0.22	0.29	0.32	0.18	0.18	0.16	0.38
	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	Q9	0.57	0.14	0.55	1.00	0.29	0.14	0.25	0.14	0.57	0.56	0.54	0.53	0.46	0.60	0.35	0.34	0.41	0.43	0.39	0.33	0.20	0.68
	産学関係の深まり	Q10	0.33	0.09	0.13	0.29	1.00	0.01	0.12	0.19	0.37	0.32	0.34	0.46	0.37	0.30	0.36	0.28	0.24	0.31	0.35	0.23	0.12	0.33
	支出	Q12	0.19	0.15	0.26	0.14	0.01	1.00	0.10	0.11	0.08	-0.07	0.08	-0.02	0.05	0.11	0.15	0.01	0.12	0.15	0.10	-0.04	-0.03	0.25
	広域自治体からの資源提供	Q13	0.15	0.13	0.24	0.25	0.12	0.10	1.00	0.31	0.12	0.10	0.18	0.17	0.18	0.21	0.12	0.08	0.08	0.16	0.07	0.06	0.11	0.11
	基礎自治体からの資源提供	Q16	0.22	-0.01	0.13	0.14	0.19	0.11	0.31	1.00	0.04	0.12	0.16	0.08	0.18	0.21	-0.06	-0.01	0.15	0.25	0.03	0.11	0.14	0.13
	連携先の理解1	Q19	0.39	0.05	0.37	0.57	0.37	0.08	0.12	0.04	1.00	0.84	0.78	0.64	0.72	0.66	0.45	0.48	0.56	0.61	0.62	0.52	0.28	0.60
	連携先の理解2	Q20	0.31	0.09	0.35	0.56	0.32	-0.07	0.10	0.12	0.84	1.00	0.82	0.67	0.66	0.69	0.38	0.42	0.50	0.55	0.46	0.46	0.25	0.60
	連携先からの理解	Q21	0.34	-0.03	0.33	0.54	0.34	0.08	0.18	0.16	0.78	0.82	1.00	0.65	0.54	0.78	0.49	0.52	0.43	0.46	0.46	0.43	0.15	0.73
	課題感の反映	Q22	0.32	-0.13	0.22	0.53	0.46	-0.02	0.17	0.08	0.64	0.67	0.65	1.00	0.70	0.53	0.29	0.34	0.39	0.36	0.51	0.38	0.26	0.52
	共通ビジョンの検討	Q23	0.39	-0.23	0.29	0.46	0.37	0.05	0.18	0.18	0.72	0.66	0.54	0.70	1.00	0.61	0.27	0.31	0.52	0.56	0.55	0.57	0.36	0.50
	企業の貢献度	Q24	0.33	-0.01	0.29	0.60	0.30	0.11	0.21	0.21	0.66	0.69	0.78	0.53	0.61	1.00	0.50	0.50	0.44	0.47	0.37	0.44	0.12	0.71
	継続性(学校側)	Q25	0.35	0.29	0.21	0.35	0.36	0.15	0.12	-0.06	0.45	0.38	0.49	0.29	0.27	0.50	1.00	0.81	0.34	0.20	0.23	0.09	0.12	0.53
	継続性(連携先側)	Q26	0.35	0.25	0.22	0.34	0.28	0.01	0.08	-0.01	0.48	0.42	0.52	0.34	0.31	0.50	0.81	1.00	0.32	0.25	0.33	0.16	0.23	0.52
	産業界との連携の必要性検討	Q27	0.35	0.13	0.29	0.41	0.24	0.12	0.08	0.15	0.56	0.50	0.43	0.39	0.52	0.44	0.34	0.32	1.00	0.68	0.65	0.58	0.46	0.45
	課題の産業界への共有	Q28	0.29	-0.03	0.32	0.43	0.31	0.15	0.16	0.25	0.61	0.55	0.46	0.36	0.56	0.47	0.20	0.25	0.68	1.00	0.77	0.77	0.57	0.44
	産業界の目的や必要性の理解	Q29	0.26	-0.02	0.18	0.39	0.35	0.10	0.07	0.03	0.62	0.46	0.46	0.51	0.55	0.37	0.23	0.33	0.65	0.77	1.00	0.73	0.58	0.39
	学校と産業界の議論の場1	Q30	0.27	-0.01	0.18	0.33	0.23	-0.04	0.06	0.11	0.52	0.46	0.43	0.38	0.57	0.44	0.09	0.16	0.58	0.77	0.73	1.00	0.54	0.39
学校と産業界の議論の場2	Q31	0.15	-0.08	0.16	0.20	0.12	-0.03	0.11	0.14	0.28	0.25	0.15	0.26	0.36	0.12	0.12	0.23	0.46	0.57	0.58	0.54	1.00	0.05	
負担に見合う成果	Q32	0.41	0.11	0.38	0.68	0.33	0.25	0.11	0.13	0.60	0.60	0.73	0.52	0.50	0.71	0.53	0.52	0.45	0.44	0.39	0.39	0.05	1.00	

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当する項目

※Q4はQ1選択肢1「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」回答者のみが対象のため、Q1・Q4間の相関係数算出結果はNA扱い。

付録(質問項目一覧)

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。	単一 選択	教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している 4pt 年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している 3pt 以前は実施していたが、今年度は実施していない 2pt 以前より実施していない 1pt
q2	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。	複数 選択	産学連携の必要性を感じていない 適切な連携先の企業や団体等が見つからない 連携先との関係性が十分に構築されていない 教職員への負担が大きい 生徒への負担が大きい 産学連携の実施に対する教職員の意識が高まっていない 産学連携の経験や専門知識を持つスタッフがいない 産学連携にかかる経費が不足している その他()
q3	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。	複数 選択	産学連携の必要性を感じていない 産学連携を教育課程の一環として組み込む必要性を感じていない 適切な連携先の企業や団体等が見つからない 連携先との関係性が十分に構築されていない 教職員への負担が大きい 生徒への負担が大きい 産学連携の実施に対する教職員の意識が高まっていない 産学連携の経験や専門知識を持つスタッフがいない 産学連携にかかる経費が不足している その他()
q4	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？	単一 選択	2022年以降に実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1~3年前から) 1pt 2018年度~2021年度に実施(現行指導要領施行前に開始、4~6年前から) 2pt 2017年度以前に実施(7年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 その他()
q5	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください	単一 選択	学校だけではできない取組を実現したかったため 産業界から提案があったため 自治体から提案があったため その他()

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q6	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	キャリア教育を充実させるため 実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため 課題解決力を育む学習を充実させるため 協働的な学びを充実させるため 入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため 地域社会が求める人材を育成するため その他()
q7	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。	単一選択	貴学科としての最重要課題である 4pt 確実に取り組むべき重要な課題である 3pt 優先度は高くないが、取り組むべき課題である 2pt 取り組む必要性は低い課題である 1pt
q8	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	複数選択	産業界と連携して通年で行う教育課程内の取組の実施(学習指導要領に定められた教科・科目、課題研究等) 産業界と連携して通年で行う教育課程内の取組の実施(学校設定科目) 産業界と連携したプロジェクト型・課題探究型学習の実施 産業界と連携した共同研究の実施 短期のインターンシップ・職場体験・現場実習・施設見学の実施 デュアルシステムや長期インターンシップの実施 産業界と連携して継続的に行う課外活動(専門学科に関する部活動など) 産業界による出前授業・講演(年1~数回程度) 産業界と連携した発表会・イベントの実施 産業界による進路相談の支援 産業界による資格・技能検定取得の支援 学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像・身につけたい力等)の協議 産業界からの意見・知見を取り入れた教育カリキュラムの検討 産業界からの設備や教材等の提供・貸与の活用 その他()
q9	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	非常に貢献している 4pt ある程度貢献している 3pt あまり貢献していない 2pt 全く貢献していない 1pt
q10	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。	単一選択	①一方のニーズに応えている関係 1pt ②協力しあっている関係 2pt ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 3pt ④安定して取組を継続していける関係 4pt

- ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。
- ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。
- ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。
- ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q11	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。	複数 選択	コーディネーター 産業団体(例:商工会、農協) 自治体の職員 教育委員会の職員 近隣企業の職員 学校運営協議会の委員 PTA・保護者 学校内のボランティア 管理職 教諭 その他()
q12	令和6年度の1年間において、貴校が学校の予算として直接支出した「産学連携に関わる取組」の年間予算額についてお答えください(講師への謝金、交通費、実習に必要な消耗品・教材費、外部人材(コーディネーター)の人件費など)。その際、都道府県や教育委員会が直接支払っている経費(例:外部人材の人件費補助)は含めないでください。	単一 選択	0円以上 1pt 25万円以上50万円未満 2pt 50万円以上75万円未満 3pt 75万円以上100万円未満 4pt 100万円以上150万円未満 5pt 150万円以上200万円未満 6pt 200万円以上250万円未満 7pt 250万円以上300万円未満 8pt 300万円以上350万円未満 9pt 350万円以上400万円未満 10pt 400万円以上450万円未満 11pt 450万円以上500万円未満 12pt 500万円以上 13pt わからない・回答を差し控える NA
q13	都道府県(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。	単一 選択	受けている。 2pt 受けていない。 1pt

付録:質問項目一覧

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q14	(受けている場合、) 都道府県から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。	複数選択	わからない・回答を差し控える 地域産業を担う人材の育成 地元就職・地域定着の促進 キャリア教育・職業教育の推進 探究学習・課題研究の充実 学校の特色化・魅力化 産学連携の強化 重点産業分野の人材育成(例:半導体・介護・観光・農業など) 地域防災・減災の推進 持続可能な地域社会(SDGs・カーボンニュートラル等)の推進 起業・アントレプレナーシップ教育の推進 地域文化・伝統産業との連携・振興 過疎地域等における教育機会の確保(小規模校の維持・存続含む) 教育のデジタル化(DX・ICT活用) 学習環境・設備の整備 インターンシップ・デュアルシステムの推進 産学連携コーディネーター配置・マッチング支援(ネットワーク形成) 成果発表・広報の場の整備(発表会・コンテスト等) 広域連携の推進(他地域・企業との連携) その他()
q15	(受けている場合、) 代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。	記述式(任意)	
q16	学校の所在する市町村(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。	単一選択	受けている。2pt 受けていない。1pt

付録:質問項目一覧

No	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q17	(受けている場合、) 市町村から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。	複数 選択	わからない・回答を差し控える 地域産業を担う人材の育成 地元就職・地域定着の促進 キャリア教育・職業教育の推進 探究学習・課題研究の充実 学校の特色化・魅力化 産学連携の強化 重点産業分野の人材育成(例:半導体・介護・観光・農業など) 地域防災・減災の推進 持続可能な地域社会(SDGs・カーボンニュートラル等)の推進 起業・アントレプレナーシップ教育の推進 地域文化・伝統産業との連携・振興 過疎地域等における教育機会の確保(小規模校の維持・存続含む) 教育のデジタル化(DX・ICT活用) 学習環境・設備の整備 インターンシップ・デュアルシステムの推進 産学連携コーディネーター配置・マッチング支援(ネットワーク形成) 成果発表・広報の場の整備(発表会・コンテスト等) 広域連携の推進(他地域・企業との連携) その他()
q18	(受けている場合、) 代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。	記述 式(任意)	

付録:質問項目一覧

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q19	以下の項目について、貴校の考えに最も当てはまるものを選択してください。	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。	単一 選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q20		企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。		
q21		貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。		
q22		現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。		
q23		学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。		
q24		産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。		
q25		貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。		
q26	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。			
q27	産学連携に取り組む中で、次のような機会がありましたか。	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会	単一 選択	かなりあった 4pt ある程度あった ほとんどなかった 全くなかった
q28		学校が抱える課題を産業界に伝える機会		
q29		産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会		
q30		学校と産業界が対等な立場で議論する機会		
q31		学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会		
q32	—	貴学科で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。	単一 選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q33	—	貴学科における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。	単一 選択	校内管理職 学科長 産学連携を担当する分掌(チーム) 産学連携を担当する教員(個人) コーディネーター 企業・団体の担当者 都道府県教育委員会の担当者 市町村教育委員会の担当者 産業振興系部局(自治体の産業労働部・商工観光課など)の担当者 その他()
q34	—	貴学科における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。	記述 式	卒業生数: 就職者数: 都道府県内就職者数: 産学連携の取組を行った関連産業への就職者数(回答任意): 進学者数: